

水管理・適期収穫を徹底！ 丁寧な乾燥・調製を実施！

1 収穫前までこまめな水管理を徹底

- 落水時期のめやすは出穂期25日以降とし、根の活力を維持して、土壌からの窒素供給を図り、登熟後期まで栄養を確保しましょう。
- フェーン緊急情報、週間天気予報、台風情報等に注意し、強風やフェーン等による高温・乾燥が予想される場合は、事前に灌水(走水)しましょう。

2 刈り遅れないように注意

- 積算温度表によるコシヒカリの収穫適期めやす(8月23日現在)
 - ・本年は登熟期間の高温が予想されるため、収穫適期のめやすを2日程度(50°C程度)早めています。

平場	出穂期	収穫適期のめやす	山場	出穂期	収穫適期のめやす
	8月3日	9月9日～11日		8月3日	9月12日～13日
	8月7日	9月14日～15日		8月7日	9月17日～18日
	8月11日	9月19日～21日		8月13日	9月25日～27日

※ 積算温度は、平場では小出アメダス、山場では守門西名アメダスの日平均気温を使用して算出しています。
 ※ 8月23日まで本年値、8月24日以降は過去30年間のアメダスデータ平均値を使用しています。
 ※ 積算温度表、適期収穫の詳しい資料は、JA営農センター、普及センターや各センターのホームページ等で入手できます。

- 刈取適期のめやすは、高温年の場合、出穂後の日平均気温の積算値が、こしいぶきで925°C、コシヒカリで950°Cです。

3 粳の黄化率を確認して収穫適期を判断

○収穫適期は、粳の黄化率が85～90%になった頃です。

○茎葉や穂軸は青くても粳は成熟している場合があるので、収穫適期は必ず粳の黄化率で判断してください。

4 乾燥温度や乾燥速度に注意

○生粳は、粳水分が高いほど、また高温であるほど変質しやすいため、収穫後はできるだけ早く乾燥機に張り込み、通風して生粳の変質を防止しましょう。

○乾燥機の送風温度が高いほど食味は低下します。食味の低下を防ぐため、初期水分が高いほど低い温度で乾燥しましょう。

【食味が低下しない乾燥温度】

○ 初期水分24%で50℃以下

○ 初期水分28%で40℃以下

○仕上げ水分は14.5～15%とし、過乾燥にならないよう注意しましょう。

5 適正な乾燥で胴割粒の発生を防止

○毎時乾減水分が0.8%を超えると、胴割粒の発生が多くなります。また、乾燥初期の水分が高いほど胴割れが発生しやすくなるので、注意が必要です。

○刈り遅れた場合や収穫間際のフェーン現象などで乾燥した日が続いた場合は、乾燥速度は毎時0.5%以下となるよう送風温度を低めに設定しましょう。

○フェーン現象時などは、粳水分が18%まで低下する場合があります。このような場合は、張り込み後に軽く通風乾燥したあと、夜間まで貯留して水分ムラを解消させてから加温乾燥しましょう。

6 しっかり調製して整粒歩合の高い1等米生産を

○粳すりとは、粳の温度が常温近くまで下がってから行いましょう。

○ゴムロール間隔は0.8～1.2mmが基本です。登熟程度は毎年異なりますので、使用開始時期にしっかりロール幅を調節し、肌ずれ米の発生、粳混入を防ぎましょう。

○グレーダーの網目は1.9mm以上を使用し、適正な流量で調製しましょう。

新潟県からの
お知らせ

～本年産米を対象に放射性物質を検査します～

・新米の出荷・販売は、県の検査結果を確認してから行ってください。

・検査結果については、県のホームページ等で公表します。

栽培履歴を正しく記帳し、米の初出荷時にJAへ提出してください。

不明な点はJA営農センターまたは普及センターまでおたずねください。携帯メール会員募集！営農センターへお問い合わせください。

JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター